

かけがわの森から

掛川市森林組合通信

2022年春号 Vol.59



新しい木の使い方を、
提案できる仕事場として。

おかげさまで、新事務所の竣工から
5年を迎えることができました。
木の香りに包まれた職場環境は、
創造的な木の使い方を提案する
コミュニケーション・スペースでもあります。

1月31日の静岡新聞一面



乗せされ「森林環境税」の原資となる予定です。国産材の木造住宅、非住宅や都市空間の木質化、森林にアクセスするまでの道路インフラ整備、森林環境教育の実施などに助成できるように。森林が少ない都市部の納税者にも、森林しかない中山間地域の納税者にも、不公平感のない持続可能な循環共生社会の構築に寄与するように。意義と価値のある「森林環境税」になつて欲しいと思います。

1月31日の静岡新聞朝刊一面記事で「森林資金5割超未支出」と大きな見出しがドーンと目に飛び込んできた時、驚いたと同時に複雑な心境に陥りました。記事によると、森林環境譲与税が市区町村に配分されても使い道が無く、半分以上が基金に積立てられ、2020年度の市区町村別の配分額トップは横浜市で、3億195万3千円とのこと。横浜市は市面積の約6%（約2,500ha）の森林をもっています。一方、市面積の約43%（約11,300ha）の森林をもつ掛川市は、2020年度の配分額は2,600万円。森林面積が掛川の四分の一しかない横浜市に、掛川市の11倍以上の額が配分されているのは、約34倍の人口比からそうなるのでしょが、不公平感を抱くのは私だけではないでしょう。

都市部の暮らしは、澄んだ空気、豊かな川・海、安全安心な食べ物、防災・減災機能、伝統・歴史・文化、自然環境教育やキャンプ・リクリエーションなど数えきれない森林の恩恵を享受し支えられているわけですから、森林面積が広く、その森林整備が必要な地域に配慮された制度変更が必要だと思います。真剣に脱炭素社会を目指していくのなら、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システムから脱却し、持続可能な循環型社会「地域循環共生圏」の構築を進めていくべきです。今、あらためて物の豊かさから心の豊かさへとパラダイムシフトが求められています。

2024年度からは、個人住民税に1人当たり年間1,000円が上乗せされ「森林環境税」の原資となる予定です。国産材の木造住宅、非住宅や都市空間の木質化、森林にアクセスするまでの道路インフラ整備、森林環境教育の実施などに助成できるように。森林が少ない都市部の納税者にも、森林しかない中山間地域の納税者にも、不公平感のない持続可能な循環共生社会の構築に寄与するように。意義と価値のある「森林環境税」になつて欲しいと思います。

榛村航一 組合長の 元気もりもり(森・森)通信 27

森林環境税の意義

これいい! 購買担当「リエさん」のオススメGOODS!!

新事務所竣工5周年記念特別セール

プロ用 刈刃なので
切れ味バツグン!!

●シマダ産業 山林 チップソー
(230mm・255mm)
通常価格¥1,100のところ
特別価格 **¥880** (税込)

日頃の感謝を込めて
20% OFF!!



山林

特殊ラクダ刃型

雑草・雑木・山林
下刈用

おひとり様 5枚まで
数量限定ですので
お早めに!

数量限定
200枚



組合員さまへのお願い

相続等で所有山林に異動が生じた際は
森林組合へご一報ください。



KAKEGAWA
Forest Owner's Cooperative

発行元

掛川市森林組合

〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1
TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113
<https://www.kakemori.jp>



森・掛川森林組合連携強化で 森林管理の組織力向上を目指す

今回は「かけもりインタビュー」はひと休みです。お隣の森町森林組合さんと取り組んでいる連携強化事業についてお伝えします。

森町森林組合さんについて

森町森林組合さんは当組合と同じ、大井川と天竜川の間に挟まれた太田川流域の森林組合です。森町内を管轄し、太田川、三倉川流域の森林を主なフィールドとして事業を展開されています。

連携を強化する背景

近年、国内の森林・林業・木材利用を巡る状況は刻々と変化しています。長く続いた外国産材中心の時代から、国産材、地域材の時代に移り替わりつつあります。山側には森林の公益的機能を保ちつつ、充実した資源を安定的に供給する社会的ニーズが高まっています。

そのニーズに



くためには地域の森林を計画的に、効率的に、そして安全に、管理・経営できる組織の存在が欠かせません。今まで脆弱であった森林組合組織を充実させる必要性があります。そんな背景から、両組合の連携強化の動きが始まっています。



連携強化事業報告会(役員も出席)

2年間行ってきた連携事業の成果

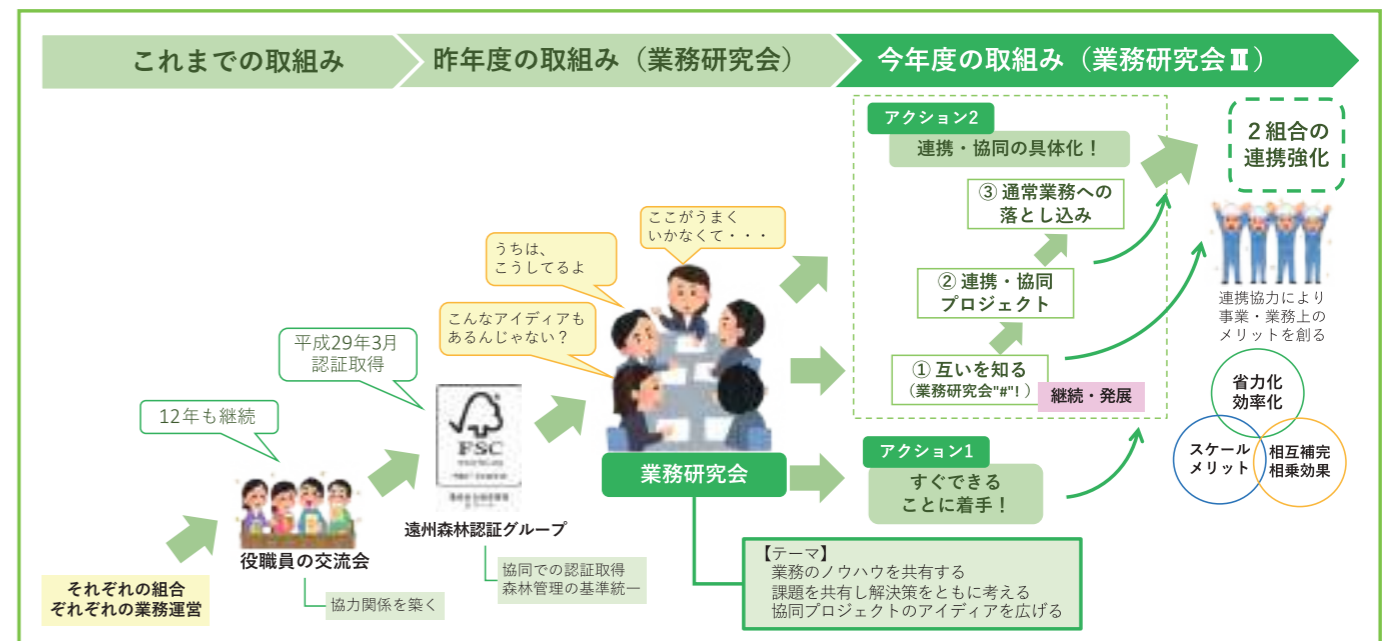
森・掛川、両組合は長年続けてきた交流会を手掛かりに、遠州森林認証グループの運営で協力を深め、太田川・原野谷川流域でFSC森林認証を広げ、推進するようになりました。そして令和2年度〜3年度、さらに連携強化を図るべく、両組合の職員がいくつ

の共同プロジェクトに取り組みました。プロジェクトの中で、両組合職員が互いを知り、業務を共通化させる良い機会が得られました。3月16日には両組合の理事・監事出席のもと、成果報告会が行われ、「総務・経理」、「計画・施業」、「流通・販売」、「マネジメント」の各部門の取組発表がされました。

今後について

相互に学び連携することで、業務の省力化・効率化がはかれ、スケールメリットが得られます。そして相互補完や相乗効果が生まれます。共同プロジェクトは今後も続いていくと思われれます。さらなる連携深化の可能性もあります。本取り組みにより組織力を強化し、社会的ニーズに応えつつ、組合員サービスや地域の森林林業の発展につなげることが大切

両組合連携イメージ



コラム「美林掛川へ」 新事務所竣工5周年 木の香り、意欲と笑顔あふれて

尾崎…新事務所竣工5周年を迎えました。旧事務所から新設移転した当時から振り返ってみましょう。

落合…竣工からあつという間の5年でした。職場環境は大きく変わりましたが、旧事務所のことはよく覚えています。トイレは汲み取り式、更衣室は男女共用、ガラスは割れたまま(笑)。

山田…思い返せば凄く環境でした。それでも不思議と嫌だったというより、慣れましたね。冬になるとガストロップが置かれ、隙間風はあつたけど暖かかったし、当時の専務や勤務していたベテラン職員さんの顔とともに、懐かしい情景が思い浮かびます。

尾崎…新事務所建設の際は、地元大和田区さんをはじめ、設計士さん、建設会社さん、市役所さんなど本当に多くの方々にご協力をいただきました。お陰で、こうして素晴らしい環境で仕事をすることが出来ます。

山田…仕事場は仕事をする人が誇りに思える場です。



5年経っても、まだ新しい発見がある建築空間

新事務所竣工5周年を記念し、ささやかではありますが「掛川の森から生まれ」利休箸3本セットを記念品として同封いたしました。森林の息づかいを食卓にどうぞ。



座談会メンバー 左から山田、落合、尾崎

ければならぬ、と言ってくれたださつた組合役員さんもいます。落合…新事務所は、職員が意欲的に森林の仕事に取り組みやすい環境であるとともに、組合員さんやお客様に、木や森林の情報を発信できる拠点になっていると思います。尾崎…新事務所は、本当に多くの方が訪ねてくださいます。落合…お客様は、この空間で地元の木のぬくもりや香りを感じていただいていますね。これからも、地域と共にある、笑顔あふれる事務所でありたいです。尾崎…この事務所を1日を過ごせるのは幸せですね。もし、昔の事務所に戻れと言われたら…落合&山田…それはちょっと無理ですね(笑)

トピックス

森林プロフェッショナルと EMTBで行くフォレストツアー第2シーズン開始



昨シーズン大好評をいただいたツアーの継続が決定しました。これまでの経験を活かし、更なる進化・バージョンアップを遂げたツアーに是非ご期待ください。今シーズンは4〜6月、10〜12月の各月に一度ずつの実施になります。先着順ですので早めのお申込みをお待ちしております。

トピックス

原泉地区重要インフラ施設 保全森林整備を実施しました

掛川市が計画・発注した「重要インフラを保全するための森林整備」を市道居尻黒俣線沿いの森林で実施しました。本整備事業により危険木が除去されて、黒俣地区へ通じる電線や光ケーブルへの倒木等の心配が減りました。また道路が明るくなり、通行の安心感も増しました。本事業には森林環境譲与税が活用されています。



施工後



施工前

トピックス

掛川産の割箸5万膳を 市内商工団体へ贈呈

農林中央金庫さんと協力し、掛川市産スギ材の割箸を掛川商工会議所と掛川みなみ商工会へ贈呈しました。割箸は各商工団体を通して市内の飲食店へ配布されています。色味色々、いい香りのスギの魅力を楽しんでもらえると嬉しいです。

